

第361回 昭和の森自然観察会

早春の生き物たち

日 時：2022年3月13日（日）10:00～12:00

参加者：大人10名 子ども6名 指導員7名 他1名 計24名

担当指導員：川北 長江 山下

報告：梅宮玲子（市原市）

少し曇って肌寒い中、「早春の生き物たち」の観察会が実施されました。芽を出し始めたばかりの植物や小さな虫たち、二ホンアカガエルのオタマジャクシに出会い、参加者は春の訪れを感じ楽しむことができました。

- 1) 蔓延防止対策として、検温、マスク、そして3班に分かれ、間隔を置いて出発。
- 2) 湿原に向かう土手で沢山のドングリの芽生えを発見。みんな大きくなることは出来るかな？
- 3) ツクシとスギナの役割分担は何でしょう。小さな草花がいっぱい咲いてる。幸運の印ナナホシテントウも！
- 4) ギシギシをよく観察すると、コガタルリハムシがいました。目が慣れて地面をよく見ると、すばしこいクモなどあちこち走り回っています。
- 5) タチツボスミレ、シュンラン、あれ？この沢山花粉の出る黄色いのは何だろう？（ヒメカンスゲと長江指導員が後日同定）
- 6) アオキの雄花と雌花の違いを観察。雄花の方が大きい。中途半端な色のアオキの実は後で虫こぶだったことが判明・・・
- 7) ニホンアカガエルの卵塊が530塊。雌の蛙は500個～3,000個の卵を1年に1回産み、春眠。雄の蛙は雌の蛙の4.5倍いるのだそう。
- 8) 滑り台の脇を登ってみると、カントウタンポポ、ウラシマソウ、フキノトウ、オオイヌノフグリなどなど・・・日当たり抜群。
- 9) 池岸のカワヅザクラがとても綺麗。下夕池にはカメが甲羅干し。パンも歩道を闊歩していまいした。
- 10) 左上タチツボスミレ、右上ジャノヒゲの実、左下アマナのつぼみ、右下シュンラン、中心カタクリ



2203syowa01.J
PG



2203syowa02.J
PG



2203syowa03.J
PG



2203syowa04.J
PG



2203syowa05.J
PG



2203syowa06.J
PG



2203syowa07.J
PG



2203syowa08.J
PG



2203syowa09.J
PG



2203syowa10.J
PG